

## 2019 年度南関東三支部合同懇親山行参加報告

令和元年（2019）の日本山岳会・南関東三支部合同懇親山行は、10月26日（土）、東京多摩支部（野口支部長以下33名）主催により、神奈川支部（込田支部長以下7名）及び埼玉支部（林事務局長、竹内タミ子さん、松本支部長の3名）が参加して、「奥多摩むかし道」で開催された。折しも、台風19号及びその後の台風20号崩れの大雨で関東・東北地方に未曾有の洪水災害をもたらした直後のため、当初予定していた本仁田山登山は安寺沢登山口から入った登山道が流出しているとのことで、奥多摩駅から奥多摩湖へと続く「奥多摩むかし道」（旧青梅街道で氷川村から小河内村に達する道）トレッキングに変更されたものである。更に、旧青梅街道は小菅から大菩薩峠を越えて甲府に至る甲府裏街道とも呼ばれているとのことである。



奥多摩駅前に集合



奥多摩むかし道の案内板



奥多摩 BC 全景

多くの参加者はホリデー快速おくたま3号で奥多摩駅前に9時20分に集合、東京多摩支部の拠点である奥多摩BCに移動し、「奥多摩むかし道」ハイキングコースの概略説明を受けた。また、奥多摩BCには日本山岳会の年表、歴代会長の写真、ピッケル等の登山道具が壁一面に掲示されていて、東京多摩支部の力の入れ方が窺い知れる。

奥多摩BCの前で集合写真を撮った後、3班に分かれて最終地点である桃ヶ沢バス停に向かって順次出発（10時）した。氷川の地名の由来である奥氷川神社を氷川大橋から左下方に望む。奥多摩むかし道入口（立派な説明版が設置）から羽黒坂を登り羽黒三田神社前（10:12）を過ぎる。羽黒神社の入口の説明版には「領主将門十六世の孫三田弾正の忠平次秀宿願成就に因り社殿を再建・・・神奈川県知事 内海 忠」と記されている。奥多摩は秩父同様に将門伝承の残る地であった。左手に廃線となった鉄路が雑草と苔に覆われていた。槐木（さいかちぎ）の大木の横には立派な公共トイレが設置されている（10:34）。



羽黒三田神社



廃線の横を通る



槐木の太木とトイレ

青梅街道の橋詰バス停に出る手前から登り返し、トイレが設置されている不動の上滝で小休止（11:25）となる。急な石段を登った先に大岩を背負って白髭神社があり、境内で昼食（12時）となる。白髭神社の説明版には「古代において白髭大神信仰の文化が多摩川をさかのぼり、古代人の思想に一致した神やどる聖地として巨岩のある清浄高頭この地に巨岩を御神体として、祭祀が営まれました。奥多摩町教育委員会」と記され、神社背後の大岩が信仰の対象であったようである。弁慶の腕ぬき岩を過ぎ、惣岳の成田不動尊（12:55）につく。入口の説明版には「明治年代、水根の奥平大乘法印と信仰心の厚い惣岳の奥平庄助によって成田不動尊を勧請・祭祀しました。奥多摩町教育委員会」と記されている。羽黒神社の将門伝承と将門の乱を鎮めるために朝廷から送られた成田不動尊信仰とが混在する民間信仰も興味深い。しだらく吊橋には『惣岳の荒』といわれて、多くの巨岩が溪谷美をみせています。巨岩から巨岩をつなぐように直径約二十センチメートル程の杉丸太を四、五本ずつ藤蔓で結び架橋していました。現在は吊り橋となりました。奥多摩町教育委員会」と説明があり、数日来の大雨で増水して褐色に混濁した多摩川が荒れ狂っていた。馬の水のみ場から西久保の切り返しで休憩・時間調整後、桃ヶ沢バス停（15時）から西東京バスで全員一緒に奥多摩BCに戻った。



不動の上滝



境（氷川と小河内）集落



白髭神社と巨岩



惣岳の成田不動尊



しだらく吊橋



桃ヶ沢バス停

東京多摩支部による暖かくも万全の準備のもと、奥多摩BCの隣にある木村邸ギャラリー（旧木村氏の呉服店）で手作りの懇親会が開催され、東京多摩・神奈川・埼玉の三支部による懇親を深めることができた。来年は神奈川支部が三支部の担当で、再来年の日本山岳会全国支部懇談会は神奈川支部が主管する予定とのことである。 松本敏夫記